

1

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

三十を少しこえた頃二年ほどドイツでくらしした。今から四十年近く前のことである。日本ではすでにドイツ語教師になっていたからドイツへ行くとすれば留学というかたちをとるのがふつうだった。とは言え当時はかなりの秀才でなければ留学のシヨウガク金<sup>a</sup>などもらえなかったから、凡才たる私は最初からあきらめていた。

その私のそこへ幸運にもドイツの大学で日本語教師をつとめる話が舞いこんだ。今にして思えば生涯の幸運ともいべきめぐりあわせであった。私が初めて足を<sup>b</sup>フみ入れたドイツはまだ大学生の数も少なかったし、ましてや日本語を勉強したいという<sup>(1)</sup>奇特な学生などちらほらとしかいなかった。大学へも週に二、三度教えに行くだけですんだ。

本来ならその空き時間には留学生のふりをして大学の講義などにもぐりこむべきだったのだろう。しかしそんなことは一度もないままオペラや芝居ばかりにかよっていた。あとは下宿の小母さん<sup>おば</sup>や個人的に日本語を習いたいドイツ人と世間話をしていただけであり、こののんびりした生活は大学で講義など聞くよりよほど勉強になった。

大学の日本語教師はかたちの上ではドイツの地方公務員であり、留学生のシヨウガク金をかなり上回る給料をもらうことができた。ドイツに留学した日本人はたくさんいるが、ドイツで給料をもらった人間はごくワズかであろう。給料をもらうとなるとLohnsteuerkarteなるものを提出しなければならぬ。手元の独和辞書を見れば勤労所得税カードという訳語が出ている。日本でも給料をもらえば所得税はとられるから当然その種のカードを提出している筈<sup>はず</sup>である。だがそれは就職のさいに何枚か書いて出す書類のひとつにすぎず、まったく覚えていない。

ドイツでの就職に限って所得税カードのことを覚えてるのは、世にも不思議なことを聞かれるからである。(イ)ドイツの所得税カードには自分の宗教を書きこむ欄がある。当時はまだイスラム系テロリストもいなかったし、サンコウのために宗教を聞いておくというのではない。ひとえに教会税という税金のためなのである。教会税は所得税に連動した税であり、所得税カードにキリスト教徒と書きこめば、プロテスタントであればトリックであれ所得税の九パーセントの税金をとられる。

教会税は或<sup>あ</sup>る程度の高額所得者にとってはかなり高額の税となるので、今から十年ほど前にテニスの女王シユテフィー・グラフが教会を脱退して話題になったことがある。ドイツ人にもこんな高額の税を払うくらいなら教会を脱退したいと内心思っている人が多いに違いないし、それゆえグラフの教会脱退は話題を呼んだのだと思うが、当時のドイツでは教会脱退はまだ<sup>(2)</sup>世間体<sup>てい</sup>のわるい行為だった。(世間)という観念は後進国日本だけにあると思っっている歴史学者もいるが、ドイツにだって<sup>(3)</sup>世間<sup>せけん</sup>なるものはあると私は思っている。

二十一世紀に入った現在は教会脱退者が次第にふえていることも確かで、今や経済的に立ち行かなくなる教会も少くないという。だが四十年近く前のドイツ、つまり東西ドイツの統一などとても考えられなかった頃の西ドイツでは教会税は厳として存在し、税収も豊かだったせいかなドイツの教会の建物はホ<sup>e</sup>シユウも行き届いてピカピカだった。

(一〇) 教会税を払うのはキリスト教徒だけである。日本人でもドイツで給料をもらう以上、キリスト教徒であれば所得税とともに教会税を払わなければならない。私はごくふつうの日本人で何教の信者といった意識はまったくなく、自分の家がたしか曹洞宗<sup>そうどう</sup>だったからブッディストと書きこみ、教会税をとられることもなかった。

それでいてドイツの所得税カードはかなり強烈な異文化体験だった。たしか七十一年の我が人生で、自分の宗教を問われたのはその時ただ一度だったし、自分がブッディストと名乗ったのもその時ただ一度であった。ブッディストは日本語に訳せば仏教徒であるが、何か気恥ずかしい気分になった。日本人はたぶん九十パーセント以上が仏教徒であり同時に神道信者であろうが、みずからを仏教徒や神道信者などとして意識する人はほとんどいないのではあるまいか。

私はしばらくあとの授業のさい日本語を学ぶドイツ人学生に、所得税カードにブッディストと書き込んだことを話した。ブッディストと書き込んだから教会税はとられないですけれども……などと話していると、ドイツ人学生の方は、ブッディストつまり仏教信者なるものの実体を知らないで、いろいろ興味を示して仏教にもキリスト教の洗礼や<sup>(註)</sup>堅信礼にあたるものはあるのか、毎週日曜日に教会へ行ってお説教を聞いたりするか等々のことを聞いてきた。(ハ) 答えられることはほとんど何も無い。私が格別不信心な人間だとは思わないが、日本人の日常生活に宗教のおいにするものは皆無に近い。あるとすればお葬式くらいである。仏教のお坊さんの出番<sup>(2)</sup>といえれば葬式でお経を読むくらいで、葬式仏教<sup>(3)</sup>という言葉もあるくらいだ。仏教というのはお葬式の時くらいしか関わりのない宗教と言った多少<sup>(2)</sup>侮蔑的な感じを含んだ言葉なのだが……とも話した。

(二) 私はドイツ人の学生に神道というもうひとつの宗教のことも話した。つまり日本人は生者の未来へ向けての幸運、幸福を祈願する場合には神社へ行く。初詣とか結婚式とか、受験の合格祈願とか、戦争の時代には武運長久などを祈ったりもした……。

というわけだが、日常生活の中で宗教を意識することは皆無に近いから、我々ふつうの人間はお経を聞いても祝詞<sup>のりと</sup>を聞いても意味などわからない。それに日本人のほとんどすべては仏教徒であると同時に神道の信者である。外国人からは二つの宗教の信者であることに矛盾を感じないのかと聞かれるが、まったく矛盾を感じない。私だけではなく、ほとんどすべての日本人が感じていないと思う。なぜ矛盾を感じないのか。考えてみれば不思議だけれども、ひとつには現世における幸運・幸福の祈願は神道、死後の世界の菩提<sup>ぼだい</sup>を<sup>(3)</sup>弔う、つまり冥福を祈るのは仏教、といった棲<sup>す</sup>み分けがおこなわれているから矛盾を感じないのだろう。

と云えば一応の説明はつくけれども、キリスト教徒、イスラム教徒にくらべると宗教の意識がはるかに稀薄<sup>きはく</sup>である。宗教の意識が稀薄などという表現自体日本人にはいかめしく感じられるくらいいい加減なのが日本人だというしかない。我々には神を信じるといった意識がほとんどないし、仏教徒だの神道信者だのと言われるだけで気恥ずかしいものを感じる……。

なにしろ四十年近く前だから、日本語を学ぶドイツ人学生たちにこの通りの言葉をしゃべったかどうかはまったく覚えていないが、大体<sup>(4)</sup>こんな方向の話をしたのは間違いない。

(松本道介<sup>まつもとみちすけ</sup>『極楽鳥の愁い』<sup>なげ</sup>の発見<sup>はつけん</sup>による)

(注) 堅信礼 〓 洗礼を受けたキリスト教徒が信仰を深めるための通過儀礼。

問(一) 傍線部 a ~ e のカタカナにあたる漢字と同じ漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。

a 〓 1      b 〓 2      c 〓 3      d 〓 4      e 〓 5

a ショウガク

- 1 アンシヨウに乗り上げる。
- 2 内政にカンシヨウする。
- 3 シヨウコンがたくましい。
- 4 貯蓄をシヨウレイする。
- 5 シヨウタイ状を送る。

b フみ入れた

- 1 政治についてトウロンする。
- 2 先例をトウシユウする。
- 3 アイトウの意を表する。
- 4 現政権をダトウする。
- 5 予約がサットウする。

c  
ワズか

- 1 キョウウキンを開く。  
2 キンミツに連携する。  
3 キンセンに触れる詩句だ。  
4 車の通行をキンシする。  
5 キンサで敗れる。

d  
サンコウ

- 1 議会をカイサンする。  
2 サイサンが取れる。  
3 大企業のサンカに入る。  
4 国政にサンヨする。  
5 サンビをきわめる。

e  
ホシユウ

- 1 工場からのアクシユウに悩まされる。  
2 関西をシユウユウする。  
3 シユウガク旅行に出かける。  
4 書物をヘンシユウする。  
5 抗議をイツシユウする。

問(二) 空欄(イ) (二) を補うのにふさわしい言葉の組み合わせを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

- 1 イ||すなわち  ||むろん ハ||しかし 二||さらに
- 2 イ||すなわち  ||しかし ハ||むろん 二||さらに
- 3 イ||むろん  ||さらに ハ||すなわち 二||しかし
- 4 イ||むろん  ||しかし ハ||さらに 二||すなわち
- 5 イ||むろん  ||すなわち ハ||さらに 二||しかし

問(三) 傍線部(1)「奇特」の類義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 7

- 1 奇妙
- 2 真摯
- 3 殊勝
- 4 意外
- 5 善良

問(四) 傍線部(2)「侮蔑的な感じ」とありますが、「侮蔑」の対象としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 8

- 1 仏教
- 2 葬式
- 3 宗教
- 4 日本人
- 5 キリスト教

問(五) 傍線部(3)「弔」の対義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 9

- 1 慶
- 2 徳
- 3 信
- 4 福
- 5 呪

問(六) 傍線部(4)「こんな方向」とはどのようなことを指していますか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 多くの日本人は仏教徒であると同時に神道の信者であるので、気恥ずかしく感じているということ
- 2 多くの日本人は現実主義者なので、キリスト教徒やイスラム教徒と違い、宗教の意識が稀薄だということ
- 3 多くの日本人はいい加減なので、仏教徒であると同時に神道の信者であることに矛盾を感じないということ
- 4 仏教と神道の共存に矛盾を感じない日本人は、そもそも神を信じるという宗教の意識が稀薄だということ
- 5 仏教にはキリスト教の洗礼や堅信礼にあたるものがないのに、仏教徒を自認するのは気恥ずかしいということ

## 2

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

本の内容を、より深く、より正確に理解するためには、「作者の意図」を考えながら読むという方法がある。

しかし、<sup>(1)</sup> 実際のところ、この考え方は、大きな問題を含んでいる。

作者の立場からすると、小説であろうと、エッセイであろうと、論文であろうと、**A** 的には、作品の一語一句のレヴェルから作品全体に至るまで、「こう読んでもらいたい」という「作者の意図」は必ずある。それがなければ、そもそも文章は書けないからだ。作者の死後に公開される「創作ノート」などは、その物証だろう。(中略)

しかし、その一方で、程度の差はあれ、作者が読者の読みの自由をあらかじめ想定していることも確かである。自分の言いたいことを正確に伝えたい。そういう欲求に導かれなければ、文章は生まれてこない。けれども、言葉というものの性質上、できあがったものが、どう読まれるかは必ずしも予測がつかない。

かつては、作者の言わんとしたことを正確に理解することが、本の正しい唯一の読み方である、という考え方が **B** 的だった。この考え方の根源には、一神教の影響があるのだろう。聖書を読んで、<sup>(2)</sup> 預言者や福音史家の言葉から神の意図を考えることは非常に重要だった。ところが、神学論争を見れば分かる通り、その解釈は複数化し、しばしば対立していて、どちらの解釈が「正しい」かにはなかなか決着がつかなかった。

文学作品の批評でも同じである。未だに、<sup>(3)</sup> 一〇人いれば、一〇通りの『吾輩は猫である』の読み方があるだろう。そういうとき、そもそも誰も正確には分らないのに、「作者の意図」を理解することこそ、「正しい読み方」だとして、他の読み方をすべて「間違っている」とすることは、根拠がないし、また不当に作品の可能性を狭めてしまうことになる。

そこで、文学の世界では、テキスト理論という、読者の側の創造的な読みをむしろ積極的に評価する立場の批評が一時流行した。これは、古い立場からすれば、一種の「<sup>(3)</sup> 誤読力」の評価である。

「誤読」にも、単に言葉の意味を勘違いしているとか、論理を <sup>a</sup> 把握できていないといった「貧しい誤読」と、<sup>(注)</sup> スロー・リーディングを通じて、熟考した末、「作者の意図」以上に興味深い内容を探り当てる「豊かな誤読」との二種類がある。

人の勝手な思いこみには、確かに意外な創造性が発揮されることがある。

『存在と無』という著書で有名な実存主義者サルトルは、ドイツの哲学者ハイデガーの主著『存在と時間』をある意味で「誤読」し、それによって彼の独特の思想を練り上げていった。これがイヤだったハイデガーは、その後、一般に『ヒューマニズム書簡』と呼ばれている文章を公にして、サル

トルの「実存主義」と自分の「実存哲学」とは別物だということをわざわざ説明した。

ハイデガーの著書は、どれも極めて難解である。もともと、「誤読」が生じやすいものだが、しかし、だからといって、サルトルが「誤読」を通じて考えたことが、その意味で否定されなければならない理由はない。その後も、フランスの思想家たちは、ポストモダン時代の代表的な思想家ジャック・デリダに至るまで、ある意味ではハイデガーの魅力的な「誤読」を通じて、思索を巡らせてきたのである。

哲学を例に取ると、こんな堅苦しい話になるが、もつと気楽に、たとえば、食べ物のことでも考えてみると良い。スペイン人やポルトガル人に長崎のカステラを見せると感動したといった類の話がある。カステラの起源は、「ビスコチヨ」といわれるスペインのお菓子や「パン・デ・ロー」と呼ばれるポルトガルのお菓子で、語源は、カステーリャ地方に由来しているらしい。いずれのお菓子も、今でもスペインやポルトガルで親しまれているが、それがその昔、遠い海を渡って、日本でこんなお菓子に姿を変えていたということが、彼らを驚かせるのである。当時の日本人は、材料の制約も<sup>(4)</sup>さることながら、見様見真似で、「カステラ」を作ってみたわけだが、これは一種の「誤読力」であり、その結果が、「ビスコチヨ」や「パン・デ・ロー」と同じでないからといってカステラを否定する人は誰もいない。

また、メキシコのウルトラバロック教会なども、もともとのスパニッシュ・バロック教会を何倍もグロテスクにしたような過剰な装飾を施されているが、これもまた、彼らの独創的な「誤読力」の産物である。

文化というのは、伝播過程の「誤読力」によって豊かになるものであり、これは本に関しても同じである。

しかし、見落としてはいけないのは、この豊かさは、どちらかというところ、本にとつての豊かさである。<sup>(5)</sup>

確かに、「誤読力」は、本の可能性を広げてくれる。しかし、「作者の意図」を完全に無視して、いつも「誤読力」頼みで本を読んでいる人は、何をどう読んでも、相も変わらぬ **C** 的な結論しか導き出せなくなる可能性がある。それは、読者の可能性を狭める本の読み方である。

本を読む喜びの一つは、他者と出会うことである。自分と異なる意見に耳を傾け、自分の考えをより柔軟にする。そのためには、一方で自由な「誤読」を楽しみつつ、他方で「作者の意図」を考えるという作業を、同時に行わなければならない。

これは、スロー・リーディングの<sup>(6)</sup>極意とも言えるだろう。

本を読んでいると、「どうしてこんなことが書いてあるのだろうか？」と疑問に思う部分が多々ある。どんなに好きな作家でも、所詮はアカの他人が書いているのだから、当然である。読みながら、納得できなさと感じたり、こう書いたほうがいいんじゃないかと自分なりに考えてみたりすることもあるだろう。自分が作者であったならとシミュレートしてみることは、スロー・リーディングの楽しみの一つである。

<sup>(7)</sup>とにかく、大切なのは、立ち止まって、「どうして？」と考えることだ。本というのは、そういう疑問を持った瞬間に、そういう疑問を

持った人にだけ、こっそりとその秘密を語り始めるものなのだ。疑問を持ったら、素通りせず、ましてや **D** 的に本の欠陥<sup>d</sup>などと決めつけずに、虚心にその一節に耳を傾けてみよう。たとえ、そのときには理解できなくても、そうして気にかけることで、その一節は読後も記憶に残り続け、何年か経ってから、「ああ、ずっと不思議だったけど、あれはそういうことだったのか！」と理解できる 때가訪れるものである。そのとき初めて、長い時間をかけて、作者の最も深い場所から発せられた声は、読者に届くのである。 **E** 的に、その後、何の発見もなかったとしても、それはそれで損ではないだろう。

(平野啓一郎『本の読み方 スロー・リーディングの実践』による)

(注) スロー・リーディング＝一冊の本にできるだけ時間をかけ、ゆっくりと読むこと。

問(一) 傍線部 a～d の漢字の読みと同じ読みをする漢字を含むものを、各群のうちから一つずつ選び、その番号マークしなさい。

- |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |   |    |
|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|---|----|
| a |    | 1 | b  |   | 2  | c |    | 3 | d  |   | 4  |
| a | 把握 | 1 | 衆生 | 2 | 覇者 | 3 | 吐息 | 4 | 音波 | 5 | 葉脈 |
| b | 由来 | 1 | 融資 | 2 | 油絵 | 3 | 榮譽 | 4 | 唯一 | 5 | 快癒 |
| c | 所詮 | 1 | 漸進 | 2 | 莊嚴 | 3 | 羨望 | 4 | 川幅 | 5 | 靈驗 |
| d | 欠陥 | 1 | 端緒 | 2 | 露頭 | 3 | 干渴 | 4 | 森閑 | 5 | 精魂 |

問(二) 空欄 A～E を補うのにふさわしい語を、次のうちから一つずつ選び、その番号をマークしなさい。(同じ番号を二度以上選んではい

- |   |    |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |  |   |   |  |   |
|---|----|---|---|---|---|---|---|---|--|---|---|--|---|---|--|---|
| 1 | 独善 | A |   | 5 | B |   | 6 | C |  | 7 | D |  | 8 | E |  | 9 |
| 2 | 一方 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 |   |   |  |   |   |  |   |   |  |   |
| 3 | 独創 |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |  |   |   |  |   |
| 4 | 基本 |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |  |   |   |  |   |
| 5 | 結果 |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |  |   |   |  |   |
| 6 | 支配 |   |   |   |   |   |   |   |  |   |   |  |   |   |  |   |

問(三) 傍線部(1)「実際のところ、この考え方は、大きな問題を含んでいる」とありますが、「大きな問題」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 10

- 1 「作者の意図」を理解することが「正しい読み方」であるとは、一昔前に完全に否定された考え方だということ
- 2 作者が「こう読んでもらいたい」と考えている内容は、それが言葉であるかぎり伝わるはずがないということ
- 3 「作者の意図」にこだわるあまり、作品が秘めている豊かな可能性を狭めてしまうことになるということ
- 4 「作者の意図」のない文章など存在するはずがなく、その正確な理解の方法など考える必要はないということ
- 5 作品に対する読者の理解はすべて誤読から始まるのであり、「作者の意図」の正確な理解など無意味だということ

問(四) 傍線部(2)『吾輩は猫である』の作者の作品を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 11

- 1 破戒
- 2 雁
- 3 刺青
- 4 枯野抄
- 5 彼岸過迄

問(五) 傍線部(3)「誤読力」についての筆者の考えとしてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 12

- 1 日本のカステラはスペインやポルトガルのお菓子が起源であるが、一種の誤読によってつくられたお菓子である。
- 2 スパニッシュ・バロック教会は、それを誤読したメキシコのウルトラバロック教会に比べると独創性に乏しい。
- 3 誤読にも「貧しい誤読」と、「作者の意図」以上に興味深い内容を探り当てる「豊かな誤読」とがある。
- 4 一つの書物に対する魅力的な誤読によって、思想的な深まりを体験することがある。
- 5 読者の創造的な読みを積極的に評価する立場の批評であるテキスト理論は、一種の誤読力の評価である。

問(六) 傍線部(4)「さることながら」の使い方がふさわしい文を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 13

- 1 夏の夜の寝苦しさはさることながら、熱中症になるよりましだ。
- 2 昔の学生は、末は博士か、さることながら大臣かと浮かれていた。
- 3 彼は外見はさることながらであるが、中身が貧しい。
- 4 この車は、デザインもさることながら、経済性も優れた車である。
- 5 高校生活は、勉強もクラブ活動もどちらも、さることながら充実している。

問(七) 傍線部(5)「本にとつての豊かさ」とはどういうことですか。その説明としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

14

- 1 それぞれの人のもつ誤読力が、文化が伝播する過程によって、本にとつての豊かさをもたらしてくれるということ
- 2 自分と異なる意見に耳を傾け、自分の考えをより柔軟なものにしていくことが、本にとつての豊かさであるということ
- 3 自らの誤読力を頼みにして本を読み、読者としての可能性を高めていくことが、本の豊かさを味わうことであるということ
- 4 一冊の本が、さまざまな人のさまざまな読み方によって、その内容がより豊かなものになるということ
- 5 誤読力を通して、「作者の意図」を完全なものにしていくのが本にとつての豊かさであるということ

問(八) 傍線部(6)「極意」の類義語としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

15

- 1 絶頂
- 2 熟達
- 3 真相
- 4 秘技
- 5 奥義

問(九) 傍線部(7)「とにかく、大切なのは、立ち止まって、『どうして?』と考えてみることだ」とありますが、それはなぜですか。その理由としてふさわしくないものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

16

- 1 その時は理解できなくても、記憶しつづけることで、いつか作者の深い思いが理解できるかもしれないから。
- 2 あくまでアカの他人が書いたものであり、読者が納得できない不思議なところがあるのは当然だから。
- 3 疑問をずっと持ちつづけることが、読者として作家に対する最低限の敬意であるから。
- 4 疑問を持ったその一節は、記憶に残り続け、読者に疑問を解く喜びを味わわせてくれるから。
- 5 自分が作者になったつもりで、疑問に対してその内容を書いてみるのも楽しみの一つであるから。

問(十) 本文の内容としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

17

- 1 異文化の事物を誤読して作られた様々なものは、結局オリジナルの事物に匹敵する完成度を持ちえない。
- 2 預言者や福音史家の言葉の多くは聖書の誤読によるものだったので、結果的に神学論争が生じてしまった。
- 3 スロー・リーディングから導き出される書物の解釈は創造的であるが、つねに「作者の意図」と矛盾したものになる。

- 4 自分の書物の難解さがサルトルの誤読を導いたと考えたハイデガーは、サルトルのために新たな著作を公にした。
- 5 確かに誤読力は本の可能性を広げてくれるが、「作者の意図」を問い続けることも決して忘れてはならない。

3

次の各問いに答えなさい。

問(一)

漢字の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

1

1 顧(かえり)みる

2 凝(こ)る

3 逸(そ)れる

4 疎(さげす)む

5 鑑(かんが)みる

問(二)

熟語の読みが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

2

1 泰然自若(たいぜんじじゃく)

2 唯々諾々(いいだくだく)

3 有為転変(ゆういてんぺん)

4 換骨奪胎(かんこつだつたい)

5 眼光紙背(がんこうしはい)

問(三)

「翻意」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

3

1 相手の心を読むこと

2 本心を明かすこと

3 意味を調べること

4 意思を疎通させること

5 決心を変えること

問(四) 「半可通」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 4

- 1 知ったかぶりをする事
- 2 物事がまだ途中である事
- 3 本心をほめかす事
- 4 物事を途中で諦める事
- 5 学問の初心者である事

問(五) 次のうち、他の四つとは品詞の異なるものを一つ選び、その番号をマークしなさい。 5

- 1 この
- 2 あらゆる
- 3 すこぶる
- 4 いわゆる
- 5 たいした

問(六) 「二階から目薬」と類似した意味をもつ四字熟語を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 6

- 1 一蓮托生 いちれんたくしょう
- 2 隔靴搔痒 かつかそうよう
- 3 画竜点睛 がりょうてんせい
- 4 捲土重来 けんどちようらい
- 5 切歯扼腕 せつしやくわん

問(七) 言い方が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。 7

- 1 違和感を覚える
- 2 言葉を濁す
- 3 言わざるを負えない
- 4 汚名をすすぐ
- 5 脚光を浴びる

問(八) 対義語の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

8

- 1 絶対―相対
- 2 促進―抑制
- 3 質疑―応答
- 4 原則―違反
- 5 節約―浪費

問(九) 体の部位とその説明が間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

9

- 1 二の腕(肩と肘<sup>ひじ</sup>の間の部分)
- 2 くるぶし(足首の関節の突起した骨)
- 3 目頭(目と眉のあいだ)
- 4 うなじ(首のうしろの部分)
- 5 膝小僧(膝の関節の前面)

問(十) 外来語と訳語の組み合わせが間違っているものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

10

- 1 コンセンサス(合意)
- 2 スタンス(立場)
- 3 トレンド(原型)
- 4 イノベーション(技術革新)
- 5 クライアント(顧客)

問(十) 「プライド」の意味としてふさわしいものを、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

11

- 1 抱負
- 2 自我
- 3 理念
- 4 意匠
- 5 矜持きやうじ

問(十一) 言文一致運動を推進した小説家を、次のうちから一つ選び、その番号をマークしなさい。

12

- 1 幸田露伴
- 2 北村透谷
- 3 樋口一葉
- 4 泉鏡花
- 5 二葉亭四迷

設問は以上です。